

# 山田みやこの活動報告

平成30年11月18日(日)

## 第9回 子ども虐待をなくそう！県民のつどい

### 平成30年度子どもの居場所担い手育成事業シンポジウム

テーマ 家族を支えるための子どもの居場所

会場 済生会病院みやのわホールにて

基調講演 広岡智子氏

(社会福祉法人子どもの虐待防止センター理事)

「家族に寄り添って～

怒って泣いてときどき笑って子育てを」

95%の被虐待児が親元で養育されている。地域でどうやって家庭を支え育てていけばいいのか、という重いテーマだった。

目黒で起きた児童虐待：検証の仕方が悪い、リスクをどう判断するか、支援に携わる人の感性が試される。子育てできない親がいるという現実を受け止める、虐待する母の半数は性虐待を受けている。

被虐待児はたった1人でもいいから虐待しない大人に出会うことが必要。大事にされない子は信頼できる大人に出会ってかわいい子になっていく。虐待されている時間が短いほど立ち直れる。

児童相談所だけでは無理、民間との協力が必須。

シンポジウム

村上静氏

(児童家庭支援センターにここ広場臨床心理士)

直井茂氏(栃木県北児童相談所所長)

仲村久代氏(NPO法人サバイバルネット理事長)

3名から活動報告があった。

子どもが住んでいる所の近くにあるもう一つの家の存在があることで、親と一緒に地域の中で子どもを育てることができるささやかな支援に大きな意味がある。いかにこの支援を横に繋げ広げていくかだ。

第9回 子ども虐待をなくそう！県民のつどい  
平成30年度子どもの居場所担い手育成事業シンポジウム

今年のテーマは **家族を支えるための子どもの居場所**

泣いているあの子のお母さんも  
誰にも注目されない  
子どもだった…

誰一人として  
見捨てられた子どもにしないために

今、私たちにできること…

日 時 2018年11月18日(日) 午後1時30分開演  
会 場 みやのわホール(済生会宇都宮病院南館2階)

主催: 子ども虐待防止ネットワークとちぎ 共催: 済生会宇都宮病院  
子ども SUNSUN プロジェクト  
認定特定非営利活動法人青少年の自立を支える会  
(栃木県委託「子どもの居場所担い手育成事業」)

弱音や悲しみを口に出せる社会にしていけば虐待は減る。育てられなかったら「できない」ということもありだ。家庭の中で起きていることが人目にさらされない、孤立したこわい所でなくなるよう、第三者の支援が求められる。